

## VI ワークハウスコムロード

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

事業名	定員	現員	平均利用率
就労継続支援 B 型	20 名	27 名	79.9%

#### (2) 利用者年齢構成

		20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	平均年齢
就労継続 B 型	男性	3	3	8	3	1	0	0	37.7
	女性	0	4	2	2	0	0	0	37.5

#### (3) 障害支援区分

		未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
就労継続 B 型	男性	9	0	3	2	4	0	0	18 人
	女性	4	0	0	4	0	0	0	8 人
計		13	0	3	6	4	0	0	26 人

#### (4) 工賃支給額

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
7,294 円	12,335 円	10,339 円	9,681 円	8,258 円	8,681 円	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
5,602 円	8,472 円	96,70 円	7,795 円	5,663 円	8,412 円	8,005 円

### 2. 重点実施事項

#### (1) 工賃の向上

平均工賃 1 万円以上の目標は達成できなかった。主な理由は①毎年受注していた作業種のメーカーの担当者が変わり受注自体が無くなった。②大口企業からの受注数が大幅に減ってしまった。③休みがちな利用者が複数おり、全員での平均工賃は 8,005 円となった（週 4～5 日通所の利用者の平均工賃は 12,170 円）

#### (2) 一人ひとりの希望や適性に応じた活動の支援

利用者の希望や適性を考慮した個別支援計画を作成し支援を行った。一般就職への支援 1 名、グループホームから地域移行に向けた支援 1 名の他、家庭環境の変化から生活の再構築を行った支援などを関係機関と協働で行った。

#### (3) 経営の安定化

平均利用率は 79.9% となり目標の 80% をほぼ達成した。日々、面談などを行い精神的不安や緊張を解消することで欠席者の減少を行った。しかし、週 1

～2日の利用者も多く、1日でも多く来ることが出来るように更なる支援は必要である。また、令和6年度に向けて就労移行支援体制加算の条件を整えた。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 就労支援

- (ア) 一般就労を希望する利用者が埼玉県庁人事課スマートステーションに採用された。採用後は、定期的に職場訪問して様子を確認している。令和6年4月現在も就業している。
- (イ) 就労準備性のアセスメントをリレーションシップセンター久喜と協力してもらい実施した。
- (ウ) 新たな作業を開拓したり、自立支援協議会に参加して地域の就労支援の向上に関する協議や情報収集を行った。

##### イ 日中活動支援

- (ア) 日々、面談などを行い精神的不安や緊張を解消することで欠席者の減少を行った。
- (イ) 自らの意見を述べる場として毎月作業工賃支給日にアンケートを実施し、当月の反省や翌月の目標を記入してもらい支援に反映させた。
- (ウ) 家庭環境の変化から生活の再構築を行った。関係機関と協働して行った

##### ウ 虐待防止対策

- (ア) 虐待防止委員会で用意したチェックリストを活用してチェックを行った。また、支援での声掛けの仕方の振り返り、対応方法を検証して虐待防止の意識を高めた。
- (イ) スピーチロックをテーマにディスカッションをした。

#### (2) 働きやすい職場づくり

- ア 正職員の異動があり業務分担の割り振りを再構築した。職員数が少ないので一人ひとりへの負担は大きく更なる工夫が必要である。
- イ 健康診断、ストレスチェックを実施した。コミュニケーションを密にして各職員の心身の状況を把握することに努めた。

#### (3) 人材育成

- ア 職員1人ひとりの個人としての資質向上を目的として、精神障害・発達障害、就労支援スキルに関する研修を受講した。
- イ 受講した全ての研修を共有する場を十分に持つことが出来なかった。

#### (4) リスク管理

##### ア 災害対策

- (ア) 被災時に備え、マニュアル更新、用品の整備更新を行った。避難訓練時に水害や大きな地震が起こった時の対応方法などの学習会を行った。
- (イ) 近隣施設の社会福祉法人茂樹会久喜の里（高齢者入所施設）の避難訓練に参加して災害時の連携について確認した。

#### イ 感染症対策

- (ア) 日中活動中の密を避けるため、活動場所・休憩場所・休憩時間をずらした活動を行った。
- (イ) 必要に応じた感染予防対策を行った。感染者は出たものの少人数で収まっている。

#### (5) 地域交流

年2回、地区のゴミ拾いに参加して清掃活動を行った。参加の際は、グループホームうちやの利用者と共に参加して地域との交流を持つようにしている。